

システム論で捉える人間関係

人間関係を読み解く視点を増やすために...

担当者	土屋 耕治（南山大学人文学部心理人間学科 准教授）
概要	<p>本講座では、人間関係をシステムとして捉える考え方を紹介し、ご自身が関わる人間関係、グループ、組織について読み解く視点を増やす機会となればと考えています。システム論で人間関係を捉えるとは、人は様々なシステム（要素同士が相互作用し続ける全体）の中において、人の行動や考え方がシステムの関係や状況によって変化すると考えることです。たとえば、ある人が「問題」とされている場合にも、その人自身が「問題」なのではなく、関わりの枠組みや、関係の中で起こってくるコミュニケーションのパターンによって、「問題」と見なされると考えたりします。</p> <p>講座では、家族療法で用いられるシステムズアプローチの発想のほか、システム論の考え方、3者関係について説明する社会心理学の理論（バランス理論など）を挙げながら、人間関係を捉える枠組みを紹介します。</p> <p>また、講座の中盤以降は、ご自身が関わりを持つ人間関係（扱いたいものを選択していただきます）について、ふりかえり、対話を通して様々な可能性を探索する機会を持ちます。</p> <p>人間関係をシステムとして読み解く視点は、様々な領域の対人援助に関わる方々に有効なものだと考えています。</p> <p>到達目標：システム論に基づいて人間関係を捉える視点を得ている。</p> <p>【プログラムの内容（予定）】</p> <p>第1回：人間関係をシステムとして捉える 小グループによるディスカッション</p> <p>第2回：ご自身が関わる人間関係をシステムとして捉える 小グループによるディスカッション</p> <p>第3回：システムへの働きかけを考える 小グループによるディスカッション</p>
日程	2022年10月1日(土)、10月22日(土)、11月19日(土) 3日間 全日程15:00~18:00
定員	12名
会場	オンライン
受講料	11,390円〈税込〉
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">担当講師 土屋 耕治 記</p> <p>2022年10月1日(土)、10月22日(土)、11月19日(土)、各15:00~18:00の日程で、第2回「システム論で捉える人間関係」をオンラインで実施し、13名の方に参加していただきました。「システム論に基づいて人間関係を捉える視点を得ている」ことを到達目標として、ご自身が関わる人間関係、グループ、組織について読み解く視点を増やすことを目指しました。</p> <p>システム論で人間関係を捉えるとは、人は様々なシステム（要素同士が相互作用し続ける全体）の中において、人の行動や考え方がシステムの関係や状況によって変化すると考えることです。講座では、システムとして捉える視点として、境界（バウンダリー）の引き方、円環的認識論、繰り返されるやりとりの型（コミュニケーション・パターン）、枠組み（フレーム）、家族システム論、バランス理論といったキーワードを紹介しながら進めました。</p> <p>ケースや例題をもとに小グループで見方を紹介しあったり、講座の後半ではご自身が関わりがある人間関係を捉え直してみることを試みました。</p> <p>各回の終わりには、ジャーナルを記入してもらい、それをまとめたものを次回の最初に見ながら対話をするという時間も取りました。回を追うごとに内容の理解が進んでいくような場となったのではないかと考えています。起こっていることを動的な関係として捉えていき、リフレーミング（再枠組み化）を通じた働きかけを探っていくことの有効性も見えてきました。</p> <p>対象をシステムとして捉えてみるということは、家族のやりとりも含め、様々な場面で使える応用可能性の高いものだと思います。来年度も実施する予定で計画をしていますので、機会がありましたら、ぜひご参加ください。</p>